

証券コード 6768  
東京証券取引所 プライム上場

# 株式会社タムラ製作所

2026年3月期 第1四半期決算概要

2025年8月6日



# 目次

1. 2026年3月期 第1四半期決算概要

2. 2026年3月期 通期業績予想

3. まとめ

【付録】参考資料



# 1. 2026年3月期 第1四半期決算概要

# 2026年3月期 第1四半期業績

		2025.3期	2026.3期			2026.3期
		1Q実績	1Q実績	増減	増減(%)	1Q予想(注)
(百万円)						
売上高		24,446	28,872	4,425	18.1%	28,000
売上原価 (売上原価率)		17,432 (71.3%)	21,477 (74.4%)	4,045 (3.1pt)	23.2%	-
販管費 (販管費率)		5,920 (24.2%)	6,216 (21.5%)	295 (▲2.7pt)	5.0%	-
営業利益 (営業利益率)		1,093 (4.5%)	1,178 (4.1%)	85 (▲0.4pt)	7.8%	650 (2.3%)
経常利益		1,415	923	▲ 491	▲34.7%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益		798	246	▲ 551	▲69.1%	-
為替 (米ドル/円)	期中平均	154.00	144.97	▲ 9.03	▲5.86%	145
	期末	161.07	144.81	▲16.26	▲10.09%	145

注：2025年5月14日公表数値

# 2026年3月期 第1四半期業績 主な変動要因

◆ 電子部品および電子化学材料の堅調な需要がけん引し、増収増益

(百万円)	2026年3月期 1Q実績	増減	増減率	主な変動要因など (+) 改善要因、(−) 悪化要因
売上高	28,872	4,425	18.1%	(+) AI拡大に伴い北米等でデータセンター関連需要が堅調 (+) 自動車関連は電装化進展に伴う需要の拡大が継続 ※1. 6月1日付で連結子会社の一部事業を譲渡 ※2. 1Qにおいて米国政権の関税措置に係る大きな影響なし
売上原価 (売上原価率)	21,477 (74.4%)	4,045 (3.1pt)	23.2%	
販管費 (販管費率)	6,216 (21.5%)	295 (▲2.7pt)	5.0%	
営業利益 (営業利益率)	1,178 (4.1%)	85 (▲0.4pt)	7.8%	
経常利益	923	▲491	▲34.7%	(−) 前年同四半期の為替差益計上から為替差損計上に
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	▲551	▲69.1%	

# 事業部門別・地域別推移

- ◆ 電子部品・電子化学実装が増収増益、情報機器は減収および赤字幅拡大
- ◆ 地域別では、中国で回復傾向が見られ、注力する欧米の売上・利益はデータセンター関連需要により大きく伸長

連結		(億円)	2024.3期 1Q実績	2025.3期 1Q実績	2026.3期 1Q実績	前年度比
連結	売上高		245	244	289	18.1%
	営業利益		6.2	10.9	11.8	7.8%
	営業利益率		2.5%	4.5%	4.1%	▲0.4pt
事業部門別						
電子部品関連	売上高		172	162	198	22.4%
	営業利益		6.7	6.7	8.7	30.3%
	営業利益率		3.9%	4.1%	4.4%	0.3pt
電子化学実装関連	売上高		72	77	88	14.6%
	営業利益		3.7	6.7	7.6	12.9%
	営業利益率		5.2%	8.8%	8.7%	▲0.1pt
情報機器関連	売上高		2.1	6.3	3.1	▲50.8%
	営業利益		▲1.7	▲0.8	▲2.9	赤拡
	営業利益率		▲82.7%	▲12.1%	▲93.7%	▲81.6pt

地域別		(億円)	2024.3期 1Q実績	2025.3期 1Q実績	2026.3期 1Q実績	前年度比
日本	売上高		86	85	80	▲5.4%
	営業利益（注）		▲3.3	2.8	▲1.7	赤転
	営業利益率		▲3.8%	3.3%	▲2.1%	▲5.4pt
中国	売上高		48	42	63	51.1%
	営業利益		2.0	1.2	4.4	272.8%
	営業利益率		4.2%	2.8%	6.9%	4.1pt
その他アジア	売上高		50	47	56	19.6%
	営業利益		5.4	3.5	3.5	▲0.2%
	営業利益率		10.8%	7.5%	6.2%	▲1.2pt
欧米	売上高		60	71	90	25.7%
	営業利益		2.0	3.5	5.6	60.9%
	営業利益率		3.4%	4.9%	6.2%	1.4pt

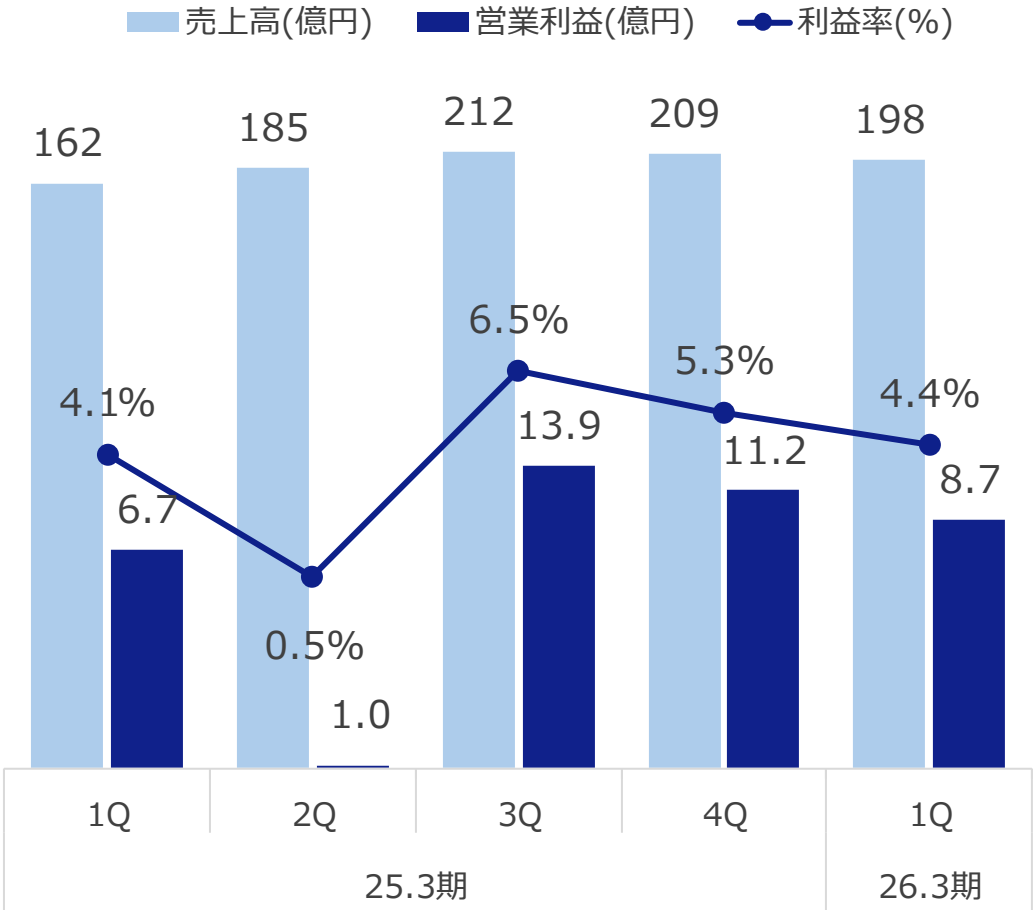
注：日本には連結消去等を含めて表示しています

# 【事業部門別】電子部品関連事業 実績

- ◆ 増収増益。米国のデータセンター用を中心に堅調に推移
- ◆ 6月1日付で連結子会社の一部事業を第三者に譲渡、1Q業績への影響は軽微

	2025.3期	2026.3期		2026.3期
(百万円)	1Q実績	1Q実績	増減(%)	1Q予想(注)
売上高	16,156	19,783	22.4%	19,300
営業利益	666	868	30.3%	730
営業利益率	4.1%	4.4%	0.3pt	3.8%

注：2025年5月14日公表数値



# 【事業部門別】電子部品関連事業 実績

- ◆ 製品別では、その他を除くすべての製品群で増加
- ◆ 市場別では、エネルギー・家電住宅向けが堅調も、産業機械向けは減少

	2025.3期	2026.3期		主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因	
(億円)	1Q実績	1Q実績	構成比 (%)	増減率 (%)	
製品別 売上高	162	198	100.0%	22.4%	
大型トランス・リアクタ	34	47	23.8%	36.8%	(+) 米国データセンター向けを中心に堅調に推移
トランス	16	21	10.6%	33.2%	
コイル・リアクタ	49	59	29.8%	19.3%	
ACアダプタ・チャージャ	21	30	15.2%	40.6%	(-) 電動工具向けの需要回復も足元の需要には一服感
EMS	3	5	2.5%	68.4%	
モジュール	16	20	10.1%	26.5%	(+) 太陽光・再生可能エネルギーを中心に安定して推移
その他	22	16	8.1%	▲ 26.8%	
市場別 売上高	162	198	100.0%	22.4%	
産業機械	43	38	19.2%	▲ 11.6%	(-) 国内外製造業で設備投資への慎重姿勢が継続
エネルギー	41	61	30.8%	48.8%	
交通・車両	19	21	10.6%	10.5%	
家電・住宅	48	66	33.4%	37.5%	(+) エアコン用需要の回復傾向が継続
情報通信・AV他	10	12	6.1%	20.0%	

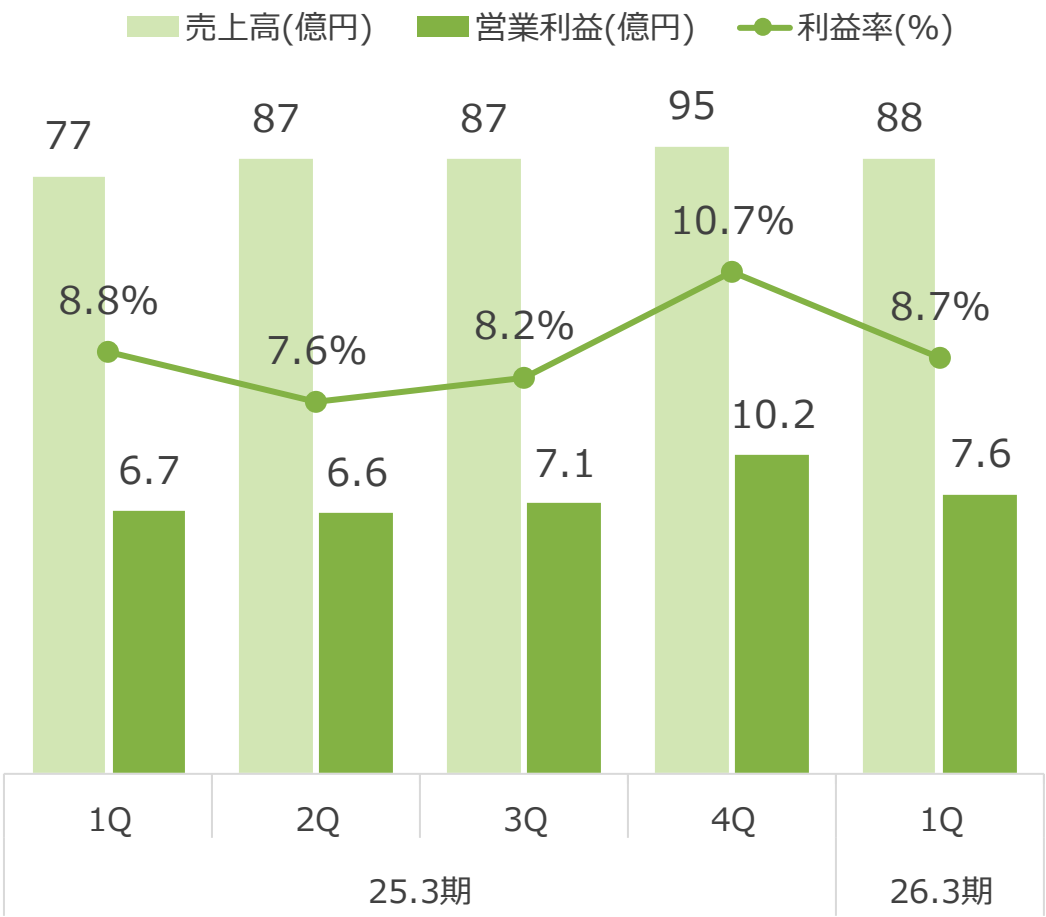


# 【事業部門別】電子化学実装関連事業 実績

◆ 増収増益。季節性による上下はあるものの、四半期売上利益は安定的に推移

	2025.3期	2026.3期		2026.3期
(百万円)	1Q実績	1Q実績	増減(%)	1Q予想(注)
売上高	7,667	8,788	14.6%	8,500
営業利益	674	761	12.9%	500
営業利益率	8.8%	8.7%	▲ 0.1pt	5.8%

注：2025年5月14日公表数値



# 【事業部門別】電子化学実装関連事業 実績

- ◆ 化学材料は、車載用・スマートフォン向けともに底堅く推移
- ◆ 実装装置は、国内外製造業で設備投資への慎重姿勢が継続し減収

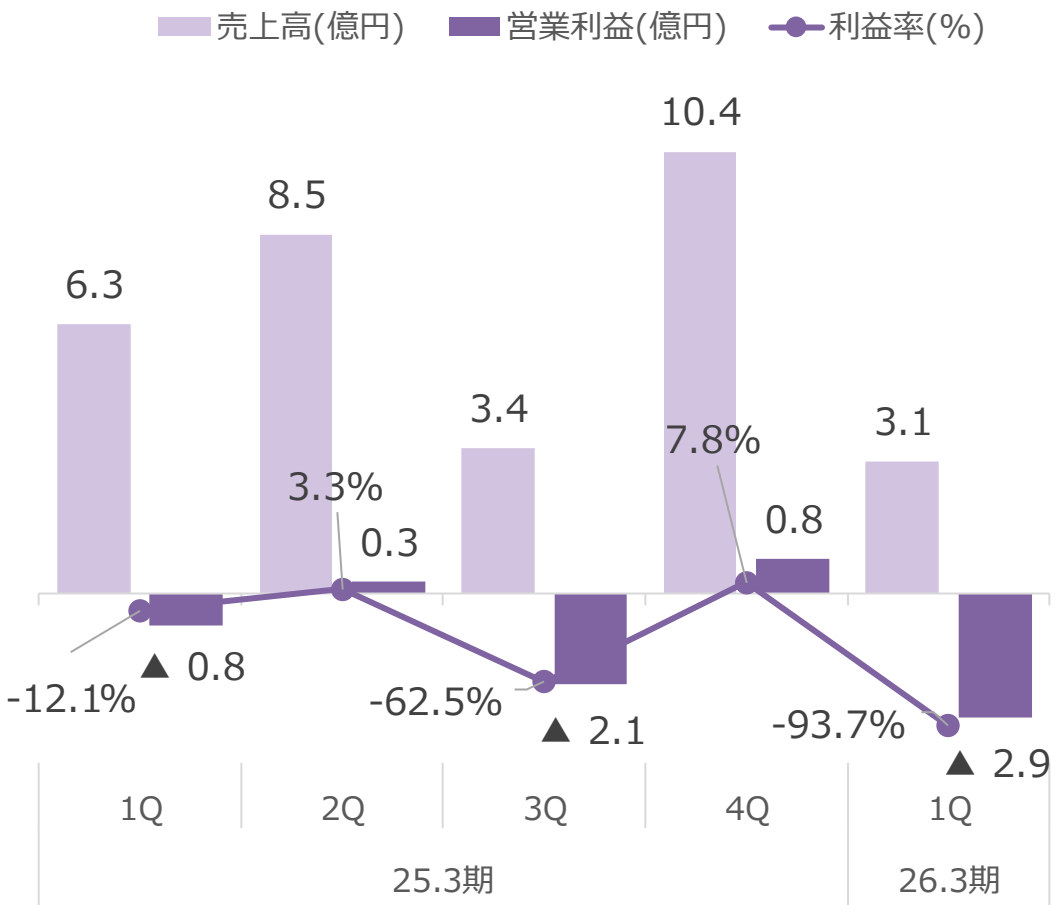
(億円)	2025.3期	2026.3期			主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因
	1Q実績	1Q実績	構成比 (%)	増減率 (%)	
製品別 売上高	77	88	100.0%	14.6%	
溶剤ペースト関連	47	56	64.6%	20.1%	(+) 車載用が堅調に推移
溶剤レジスト関連	15	16	17.9%	5.0%	(+) スマートフォン向けFPC基板用が底堅く推移
フラックス他	6	7	7.8%	12.4%	
実装装置	10	8	9.7%	▲ 15.6%	(-) 設備投資需要の低迷継続

# 【事業部門別】情報機器関連事業 実績

◆ 減収赤字拡大。放送業界全般において厳しい設備投資環境が継続

	2025.3期	2026.3期		2026.3期
(百万円)	1Q実績	1Q実績	増減(%)	1Q予想(注)
売上高	634	312	▲ 50.8%	210
営業利益	▲ 76	▲292	赤拡	▲400
営業利益率	▲12.0%	▲93.6%	▲81.6pt	▲190.5%

注：2025年5月14日公表数値



# 2025年6月末 貸借対照表

◆ 前連結会計年度末と比べ2025年6月末レートが円高となり、純資産が減少

[億円]	25.3末	25.6末	増減額
現金・預金	203	172	▲31
売上債権	301	268	▲33
棚卸資産	244	226	▲18
有形固定資産	310	314	4
資産合計	1,243	1,181	▲62
仕入債務	149	127	▲22
有利子負債	339	332	▲8
純資産	640	612	▲29
負債・純資産合計	1,243	1,181	▲62

	25.3末	25.6末	増減
自己資本比率（%）	51.3%	51.6%	0.3pt



## 2. 2026年3月期 通期業績予想

\*通期業績予想は2025年5月14日に公表した内容を再掲したものです。

# 2026年3月期 通期業績予想

(百万円)	2025.3期	2026.3期			
	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	通期増減率
売上高	114,051	55,600	56,400	112,000	▲1.8%
営業利益 (営業利益率)	5,195 (4.6%)	1,700 (3.1%)	2,900 (5.1%)	4,600 (4.1%)	▲11.5% (▲0.4pt)
経常利益	5,061	-	-	4,300	▲15.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,782	-	-	1,600	▲42.5%
為替 (米ドル/円)	期中平均	152.50		145	▲4.9%
	期末	149.52		145	▲3.0%
一株当たり配当	13.0円			10.0円	▲3.0円
配当性向	38.2%			51.1%	12.9pt
ROE	4.6%			2.5%	▲2.1pt
ROIC	4.8%			3.7%	▲1.1pt

# 2026年3月期 通期業績予想 主な変動要因

◆ 関税問題などを背景とした市場環境の悪化、収益性改善・資本効率向上の取り組み費用等で減収減益見込み

(百万円)	通期予想	増減	増減率	主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因
売上高	112,000	▲2,051	▲1.8%	
営業利益 (営業利益率)	4,600 (4.1%)	▲595 (▲0.4pt)	▲11.5%	(+) 電子部品：北米データセンター市場向けの堅調な需要 (-) 連結子会社の事業譲渡による減少 (-) 円高によるマイナス影響 (-) 事業および拠点の最適配置に関わる費用発生
経常利益	4,300	▲761	▲15.0%	※ 直接的な関税影響は限定的と見込むが、取引先動向などを踏まえて慎重な見通しを設定
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,600	▲1,182	▲42.5%	

# 2026年3月期 通期業績予想 地域別

- ◆ 日本では連結子会社の一部事業の譲渡や生産再編関連費用の発生により減収減益見込み
- ◆ 欧米では引き続きデータセンター市場の伸びにより増収増益を見込む

		2025.3期	2026.3期			主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因
		実績	予想	構成比 (%)	増減(%)	
(億円)						
日本	売上高	365	323	28.8%	▲11.5%	(－) 連結子会社の事業譲渡 (－) 生産再編関連費用
	営業利益 (注)	2.7	▲ 4.0	▲ 8.7%	赤転	
	営業利益率	0.8%	▲1.2%	-	▲2.0pt	
中国	売上高	263	266	23.8%	1.0%	(－) 設備投資への慎重姿勢継続
	営業利益	18.5	18.0	39.1%	▲2.9%	
	営業利益率	7.0%	6.8%	-	▲0.3pt	
その他アジア	売上高	205	212	18.9%	3.6%	(－) 低位な設備投資需要の継続
	営業利益	18.2	18.0	39.1%	▲1.4%	
	営業利益率	8.9%	8.5%	-	▲0.4pt	
欧米	売上高	308	319	28.5%	3.7%	(＋) データセンター向け需要拡大
	営業利益	12.4	14.0	30.4%	12.7%	
	営業利益率	4.0%	4.4%	-	0.4pt	
連結	売上高	1,140	1,120	-	▲1.8%	
	営業利益	51.9	46.0	-	▲11.5%	
	営業利益率	4.6%	4.1%	-	▲0.4pt	

注：日本には連結消去等を含めて表示しています



# 2026年3月期 通期業績予想 事業部門別

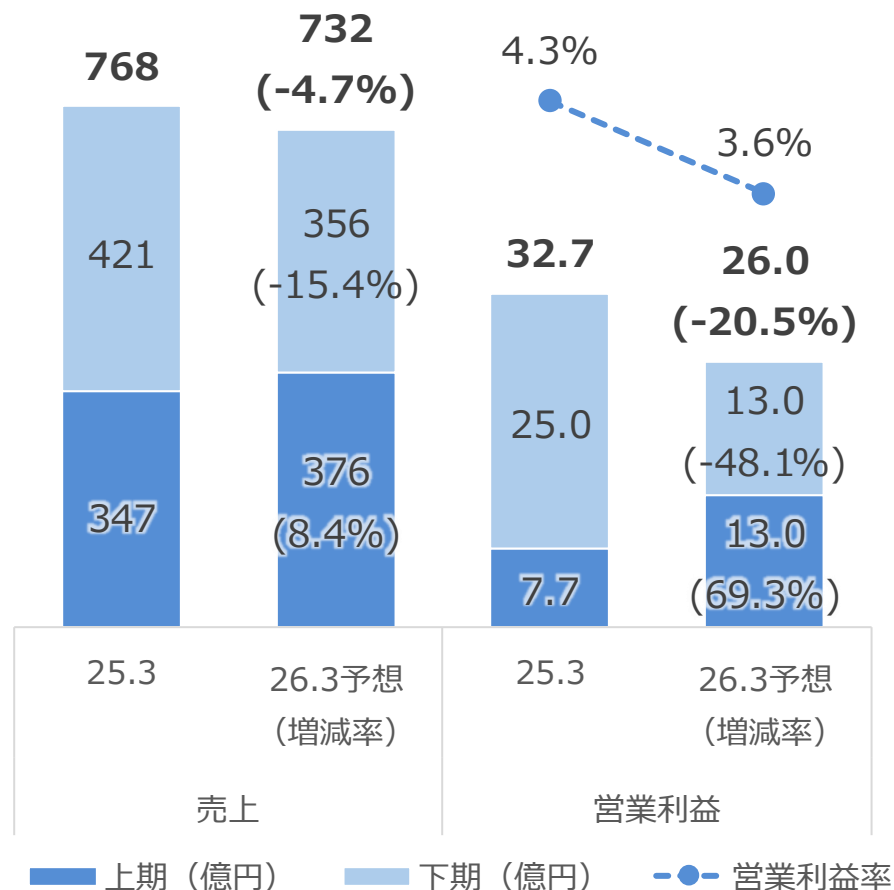
- ◆ 電子部品は、北米データセンター関連需要は堅調ながら、全体として市場環境は厳しく、減収減益
- ◆ 電子化学実装は増収減益、情報機器は増収赤字解消見込み

		2025.3期	2026.3期		主な変動要因など (+) 改善要因、(-) 悪化要因
		実績	予想	増減(%)	
(億円)					
電子部品関連	売上高	768	732	▲4.7%	(+) データセンター需要の拡大
	営業利益	32.7	26.0	▲20.5%	(-) 家電の在庫調整・産機需要の回復限定的
	営業利益率	4.3%	3.6%	▲0.7pt	(-) 連結子会社の事業譲渡による減少
電子化学実装関連	売上高	346	355	2.7%	(+) 安定的な需要継続
	営業利益	30.7	30.0	▲2.1%	(-) 円高によるマイナス影響
	営業利益率	8.9%	8.5%	▲0.4pt	
情報機器関連	売上高	29	33	15.2%	(+) 年度後半に需要回復
	営業利益	▲1.8	0.0	-	
	営業利益率	▲6.3%	0.0%	6.3pt	
連結	売上高	1,140	1,120	▲1.8%	
	営業利益	52.0	46.0	▲11.5%	
	営業利益率	4.6%	4.1%	▲0.4pt	

# 2026年3月期 電子部品関連事業 通期業績予想

- ◆ 大型トランス・リアクタは、データセンター向けの堅調な需要の継続を見込む
- ◆ 関税影響を踏まえた顧客の見通しを鑑み、ACアダプタ・チャージャは減収予想

## 売上高・営業利益



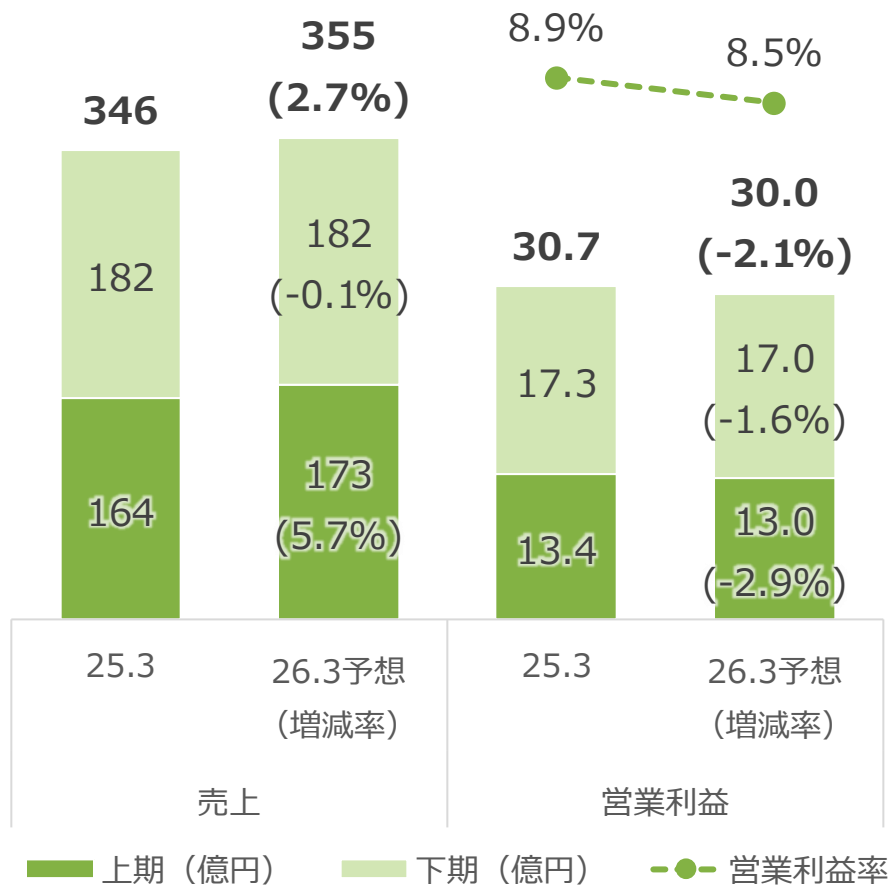
	2025.3期	2026.3期		
(億円)	実績	予想	構成比 (%)	増減率 (%)
製品別* 売上高	768	732	100.0%	▲ 4.7%
大型トランス・リアクタ	158	177	24.1%	▲ 11.5%
トランス	72	76	10.4%	▲ 5.1%
コイル・リアクタ	224	223	30.5%	▲ 0.4%
ACアダプタ・チャージャ	130	110	15.0%	▲ 15.4%
EMS	21	21	2.8%	▲ 2.7%
モジュール	74	76	10.4%	▲ 2.3%
その他 (電源、セラミック他)	87	49	6.8%	▲ 43.5%
市場別 売上高	768	732	100.0%	▲ 4.7%
産業機械	168	141	19.3%	▲ 16.1%
エネルギー	209	225	30.8%	▲ 7.6%
交通・車両	80	92	12.6%	▲ 15.7%
家電・住宅	262	244	33.3%	▲ 6.9%
情報通信・AV他	48	29	4.0%	▲ 39.6%

※ 製品別項目見直し。2025.3実績のその他には、LED含む

# 2026年3月期 電子化学実装関連事業 通期業績予想

- ◆ 車載用溶剤ペーストは継続して需要を見込む
- ◆ 実装装置は、国内外製造業の設備投資慎重姿勢継続を見込み、横ばい予想

## 売上高・営業利益

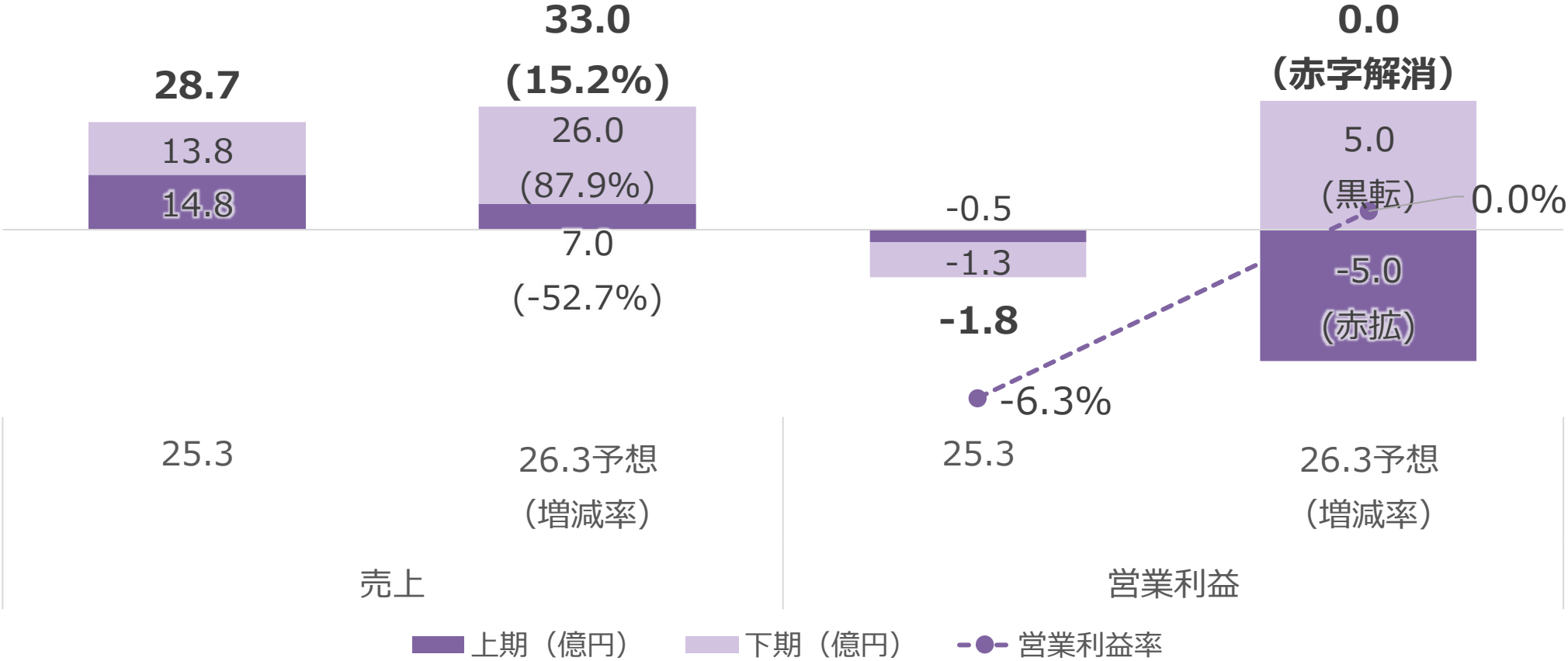


	2025.3期	2026.3期		
	実績	予想	構成比 (%)	増減率 (%)
製品別 売上高	346	355	100.0%	2.7%
溶剤ペースト関連	214	222	62.6%	3.7%
溶剤レジスト関連	67	64	18.0%	▲ 4.3%
フラックス他	26	27	7.6%	2.2%
実装装置	41	42	11.8%	3.0%

# 2026年3月期 情報機器関連事業 通期業績予想

◆ 年度後半に更新需要の回復を見込み増収、赤字解消予想

## 売上高・営業利益



# 2026年3月期 設備投資・減価償却費・研究開発投資予想

- ◆ 設備投資は、狭山事業所での新製造棟建設により大幅増加
- ◆ 研究開発では、引き続き次世代パワー半導体向けの要素技術や製品の開発に注力

	2025.3期	2026.3期		
(億円)	実績	予想	増減	増減率(%)
設備投資	46.2	72.1	25.9	56.1%
減価償却費 *リース含む	42.9	41.7	▲ 1.2	▲ 2.8%
研究開発関連費用 (売上比率)	39.7 (3.5%)	38.6 (3.4%)	▲ 1.0	▲ 2.6%

注：「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計した値です。



## 3. まとめ

# まとめ

## 1. 2026年3月期第1四半期決算概要

### - 増収増益

電子部品：増収増益。米国のデータセンター用を中心に堅調に推移

6月1日付で、連結子会社の一部事業を第三者に譲渡

電子化学実装：増収増益。化学材料が底堅く推移、実装装置は設備投資需要の低迷継続

情報機器：減収赤字拡大。放送業界全般において厳しい設備投資環境が継続

### - 地域別では、注力する欧米の売上・利益がデータセンター関連需要により大きく伸長

## 2. 2026年3月期通期業績予想

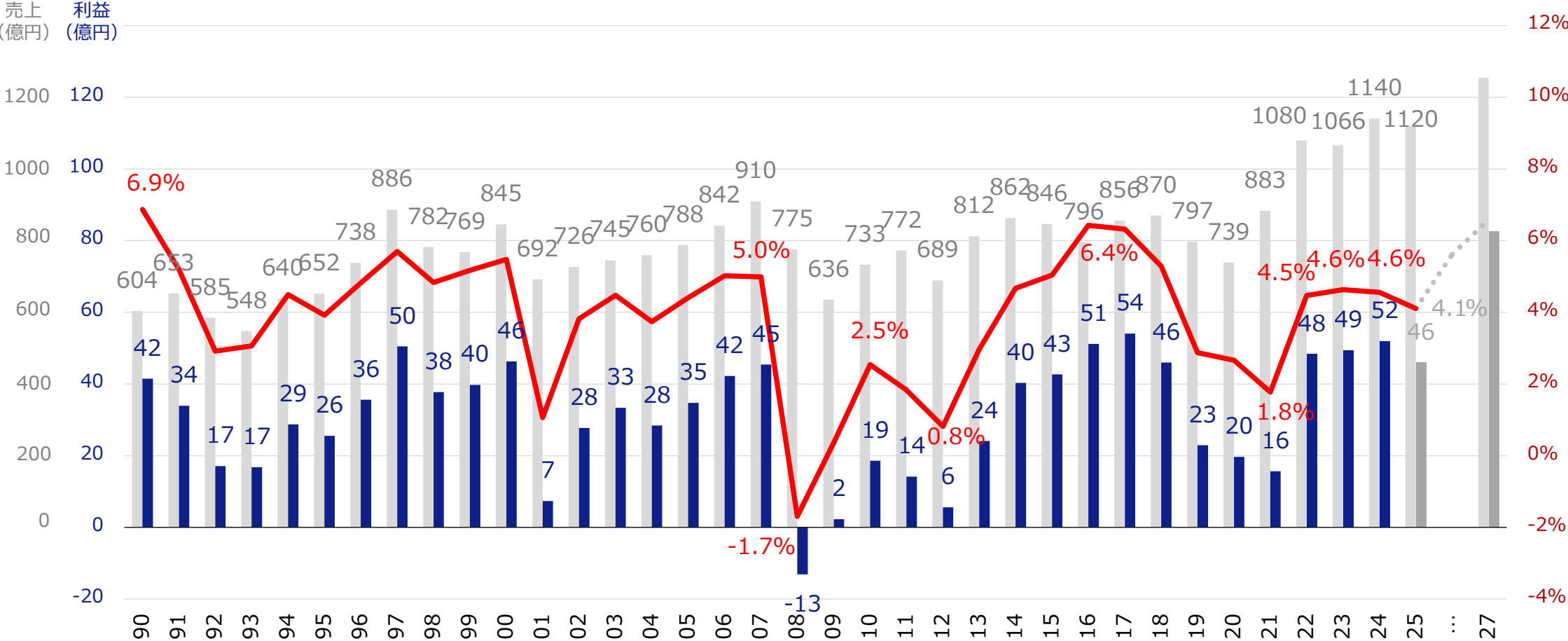
### - 関税問題などを背景とした市場環境の悪化、収益性改善・資本効率向上の取り組み費用等で減収減益見込み

### - 電子部品は、北米データセンター関連需要は堅調ながら、全体として市場環境は厳しく減収減益

### - 電子化学実装は増収減益、情報機器は増収・赤字解消見込み

# 全社: 売上高・営業利益の推移

売上高 営業利益 営業利益率



1992年  
バブル崩壊

2001年  
ITバブル崩壊

2008年  
リーマンショック

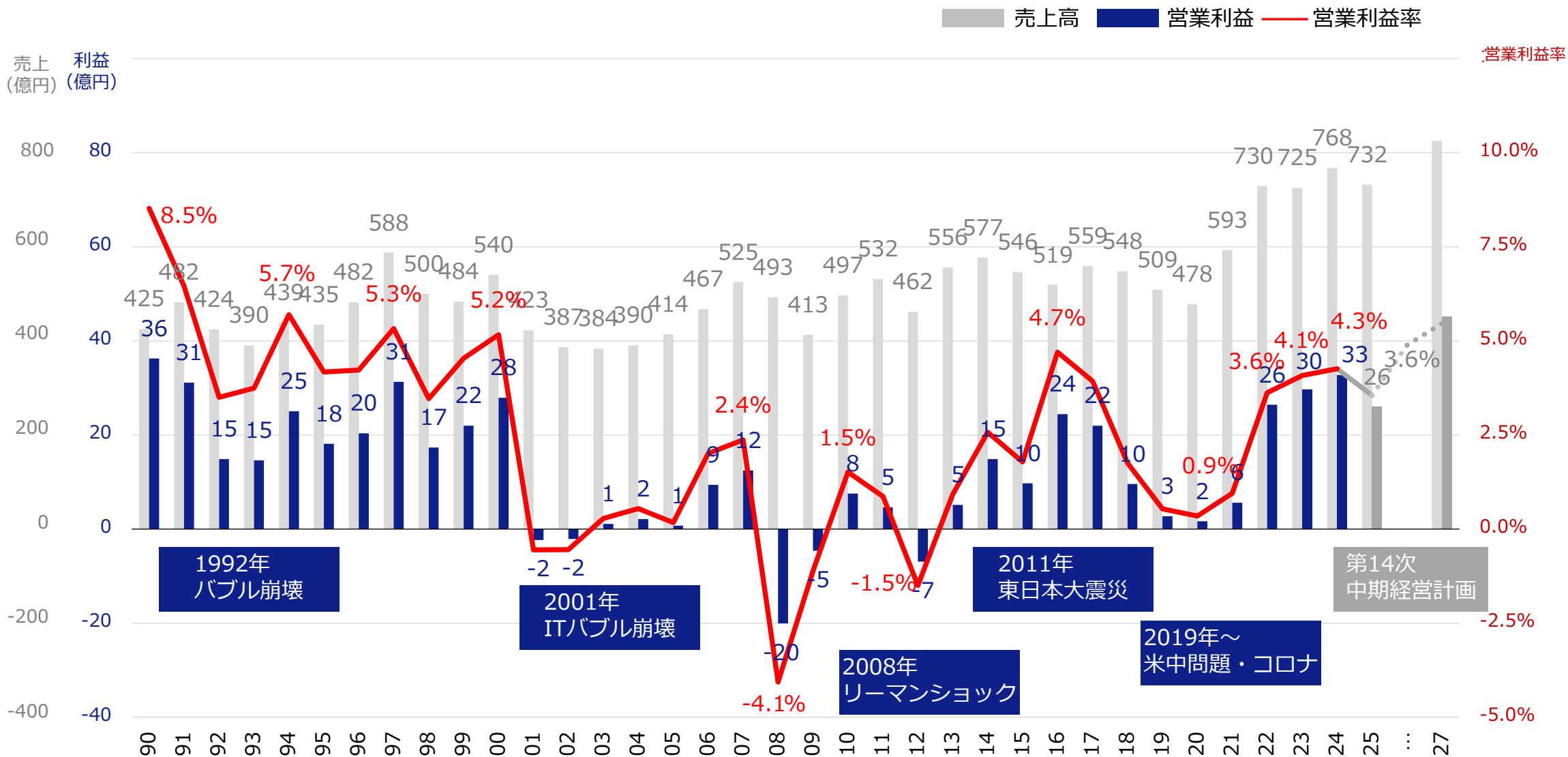
2011年  
東日本大震災

2019年～  
米中問題・コロナ

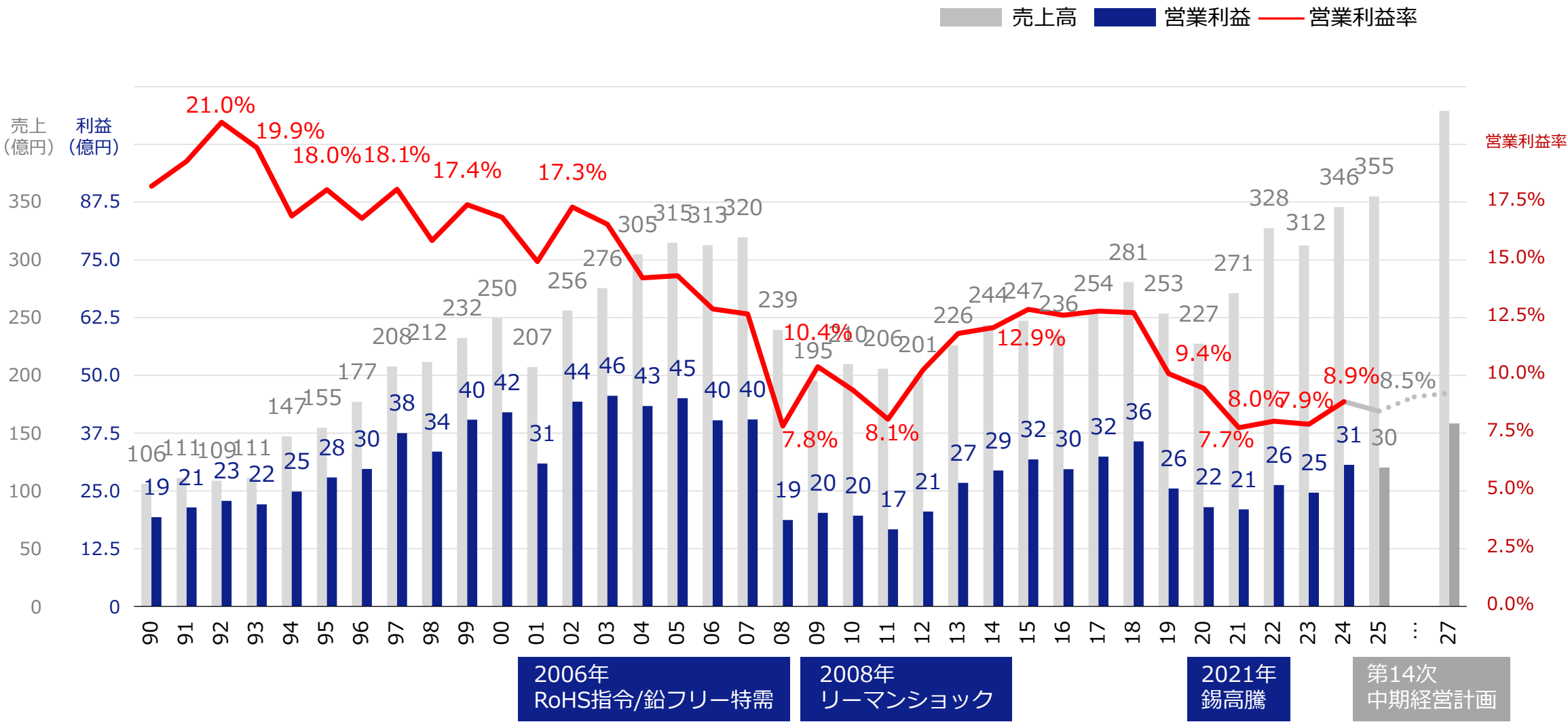
第14次  
中期経営計画



# 電子部品：売上高・営業利益の推移

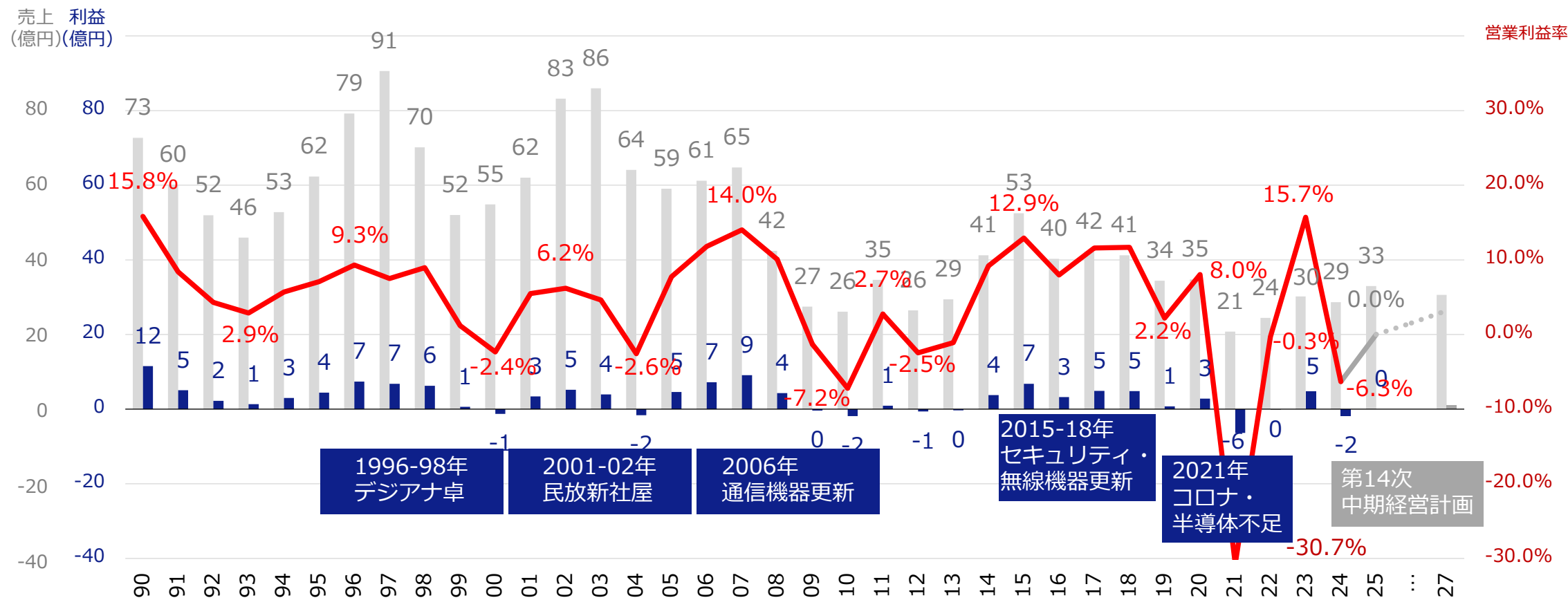


# 電子化学実装: 売上高・営業利益の推移

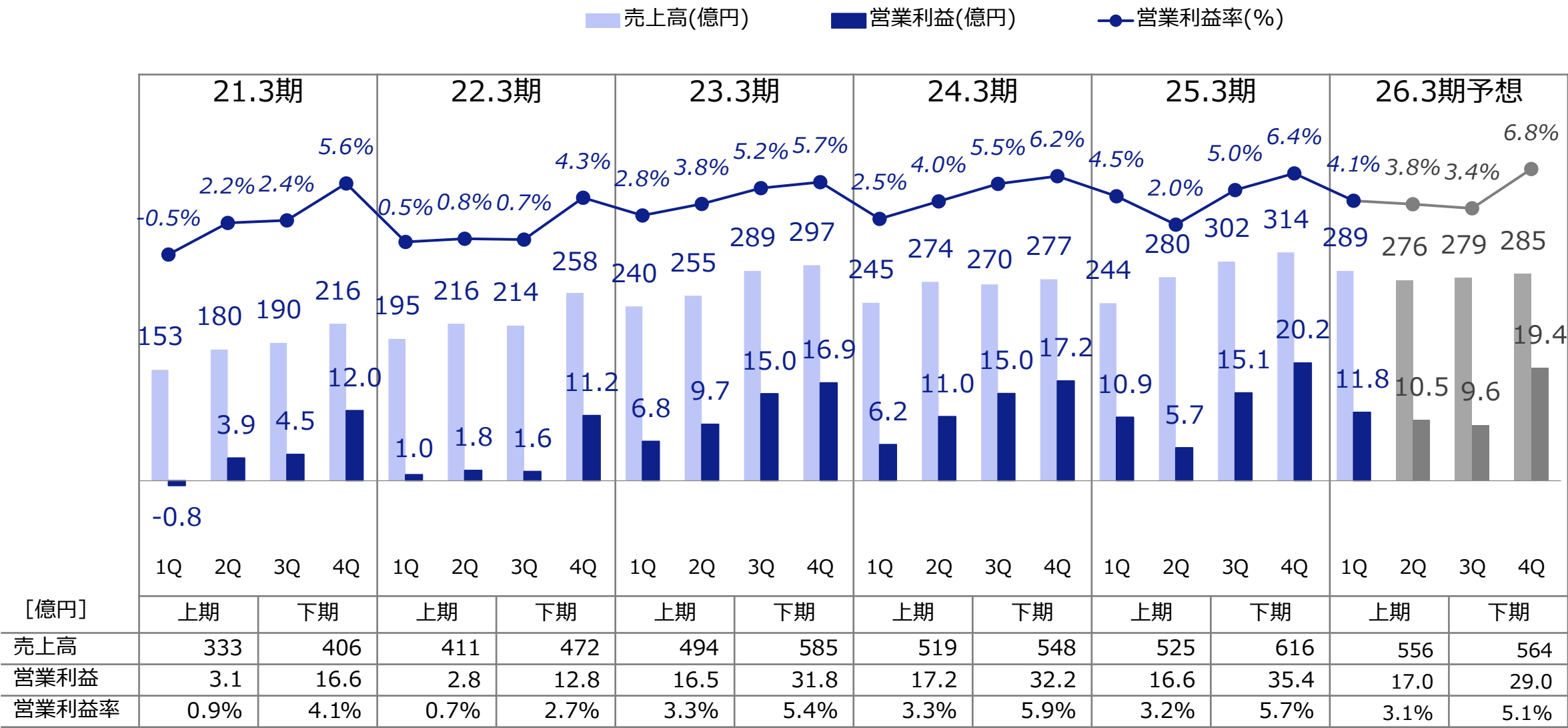


# 情報機器：売上高・営業利益の推移

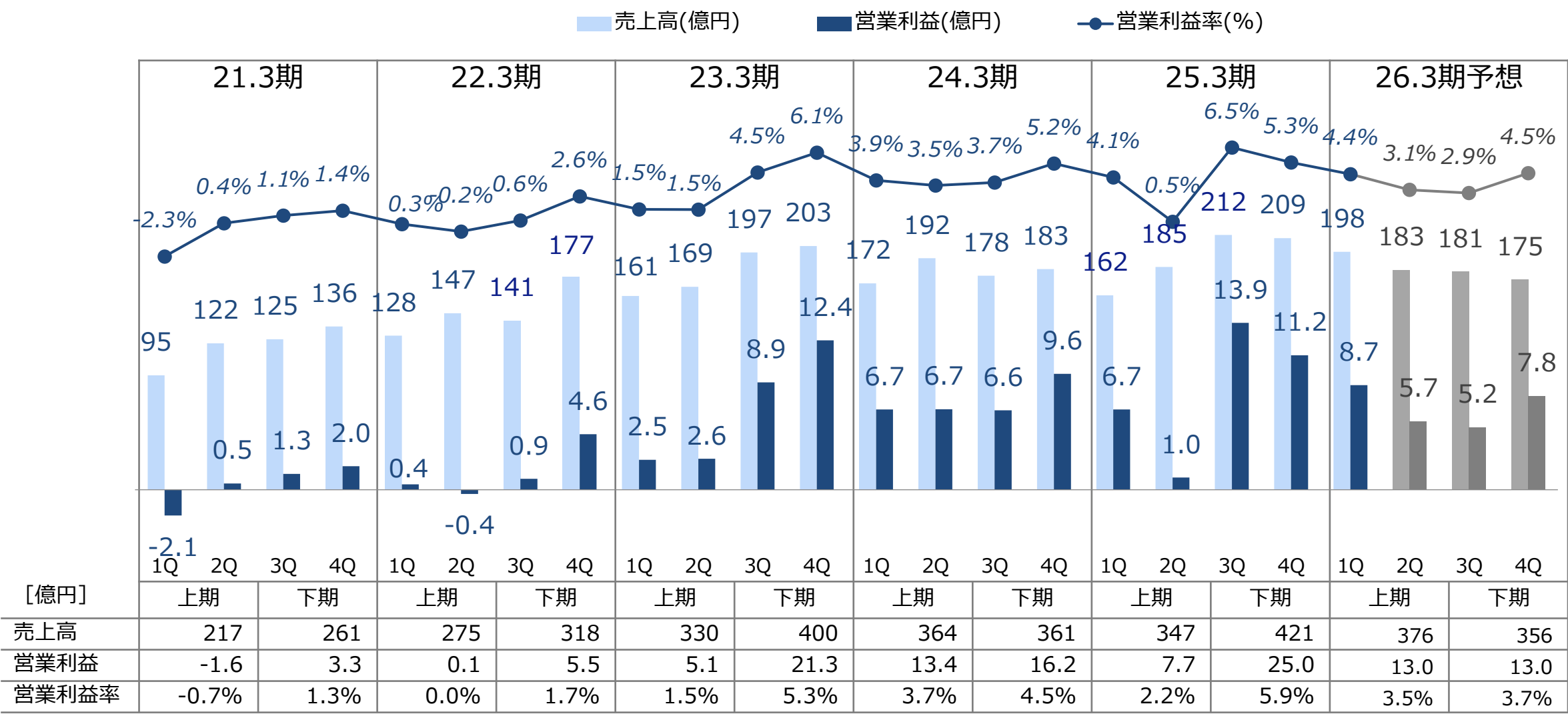
売上高 営業利益 営業利益率



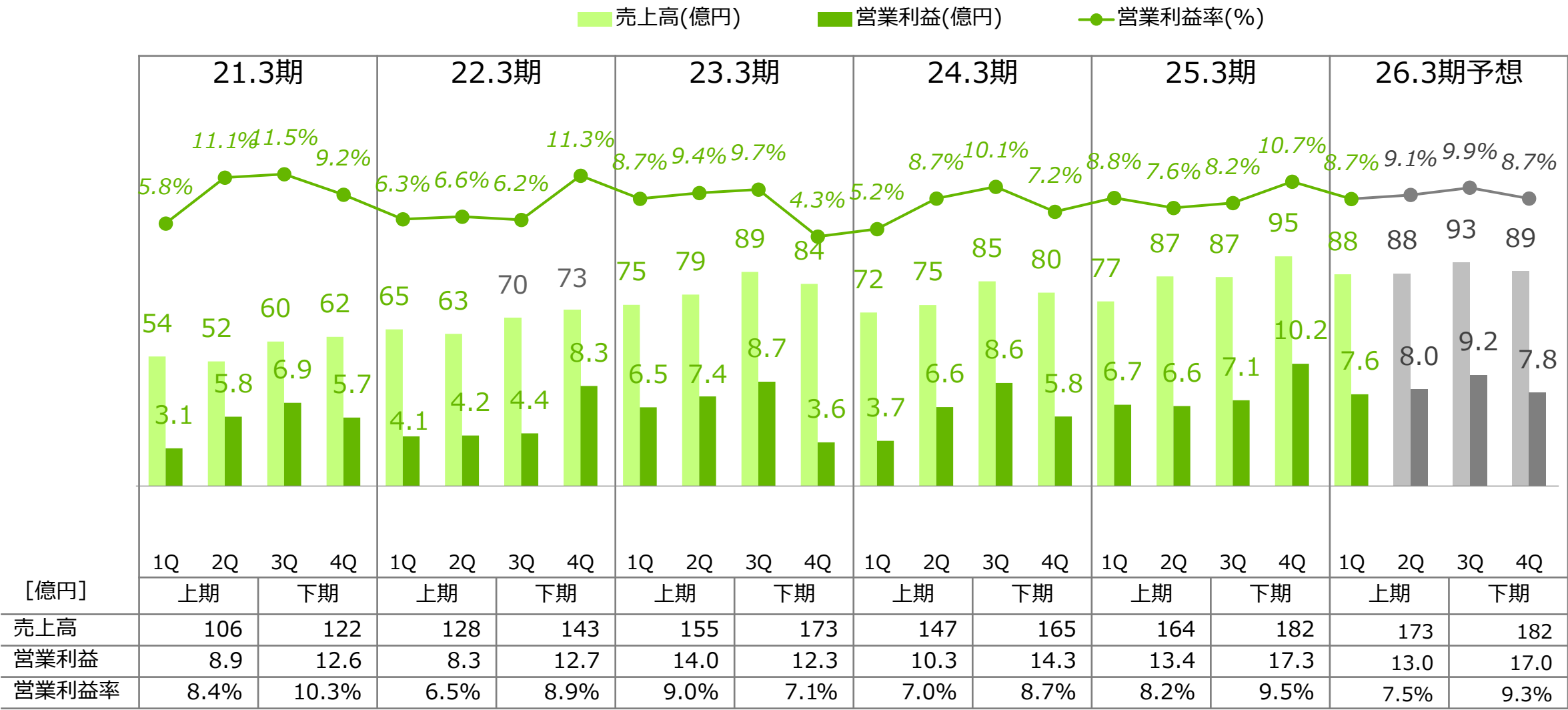
# 全社: 売上高・損益の四半期推移



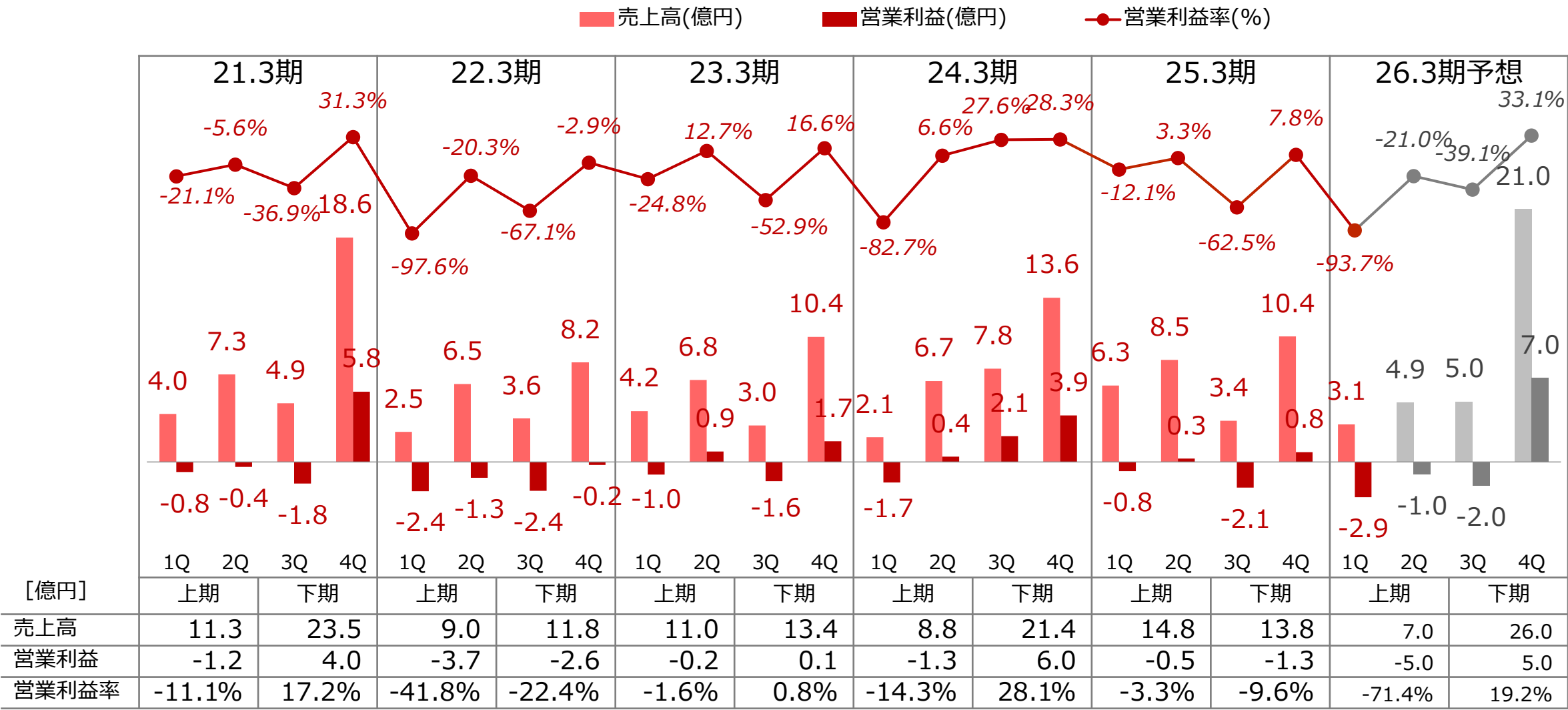
# 電子部品：売上高・損益の四半期推移



# 電子化学実装: 売上高・損益の四半期推移



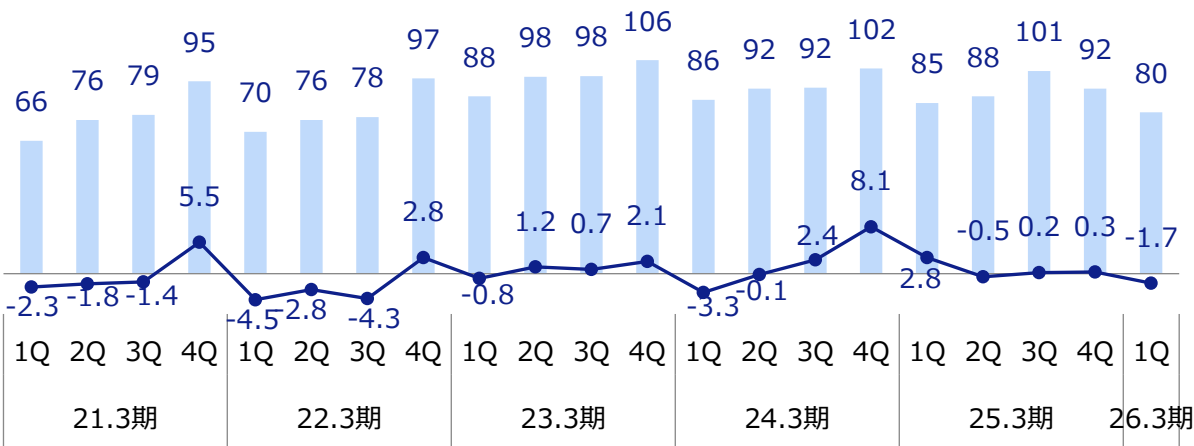
# 情報機器：売上高・損益の四半期推移



# 地域別：売上高・損益の四半期推移

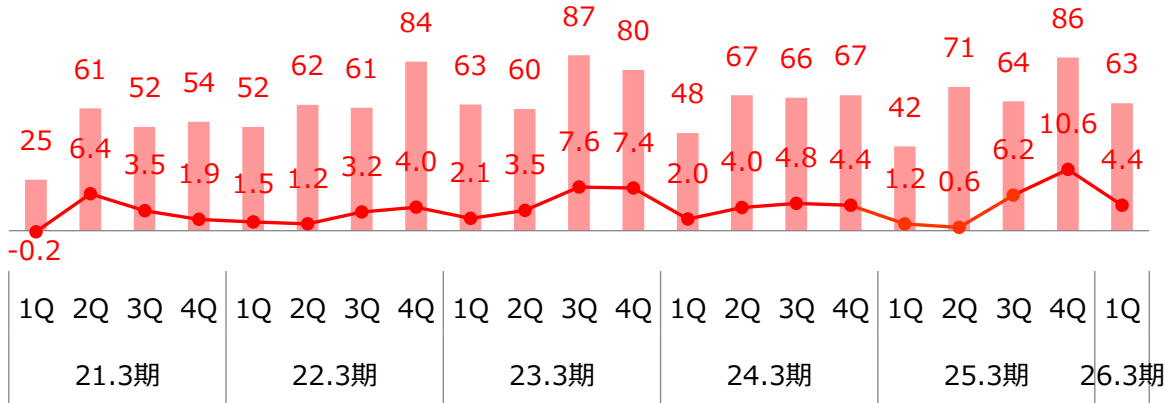
売上高(億円) 営業利益(億円)

## 日本

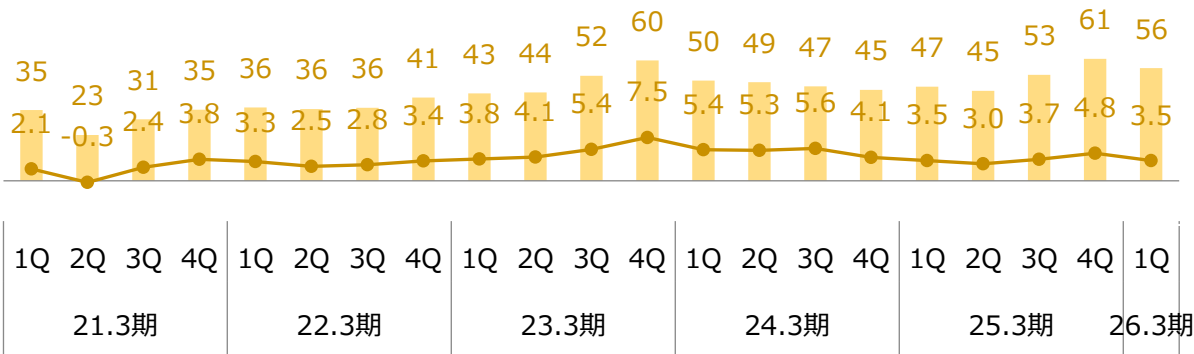


注：日本に連結消去等を含めて表示しています

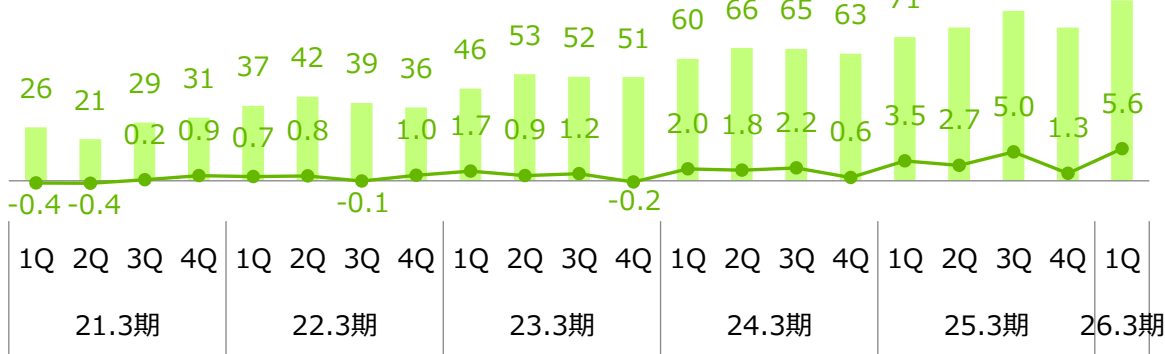
## 中国



## その他アジア

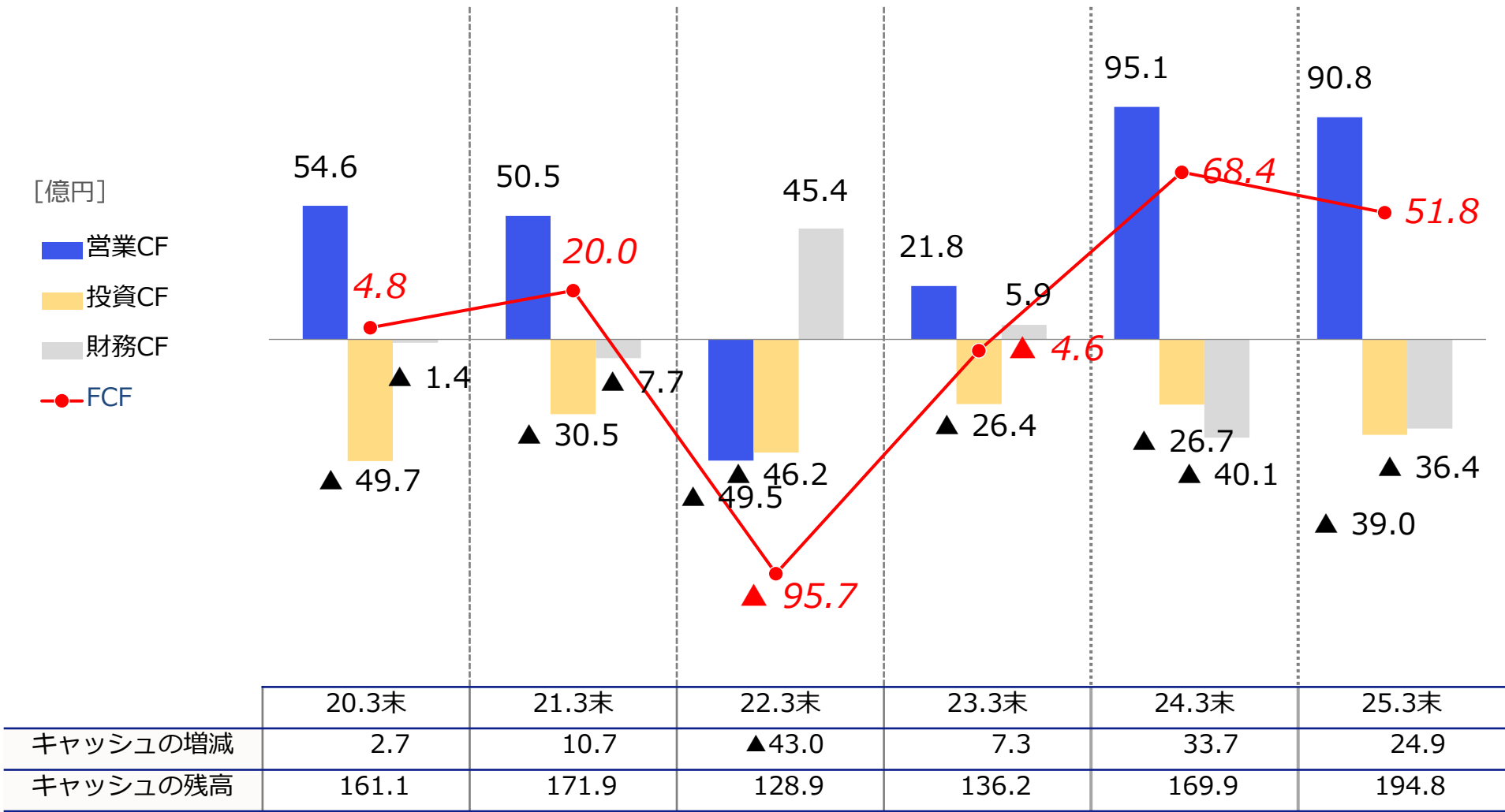


## 欧米



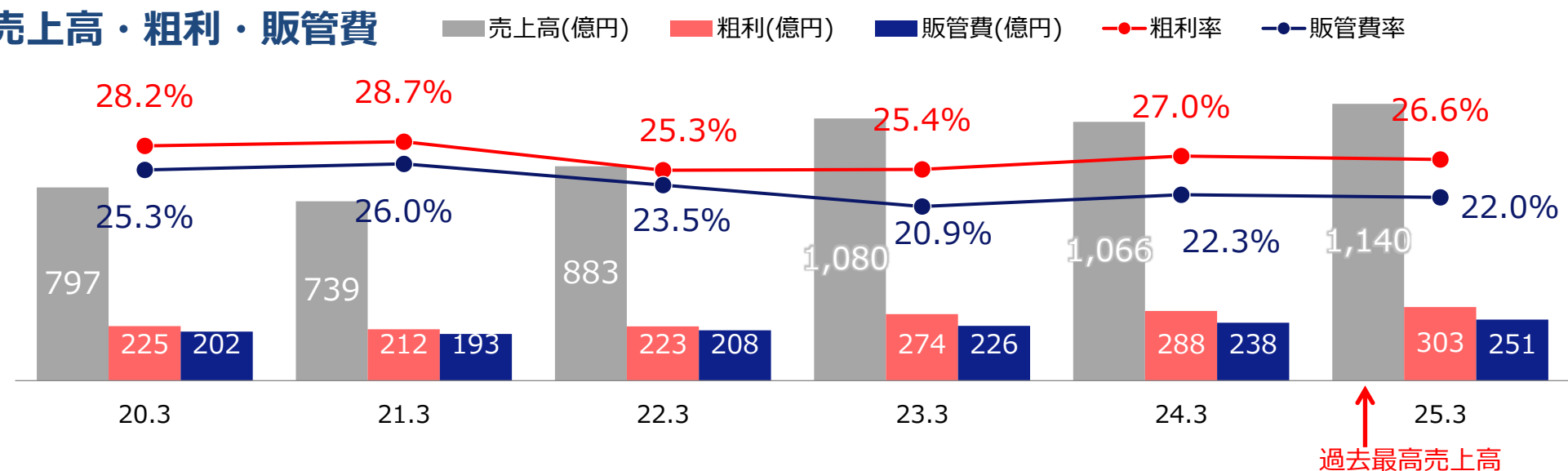


# キャッシュ・フロー

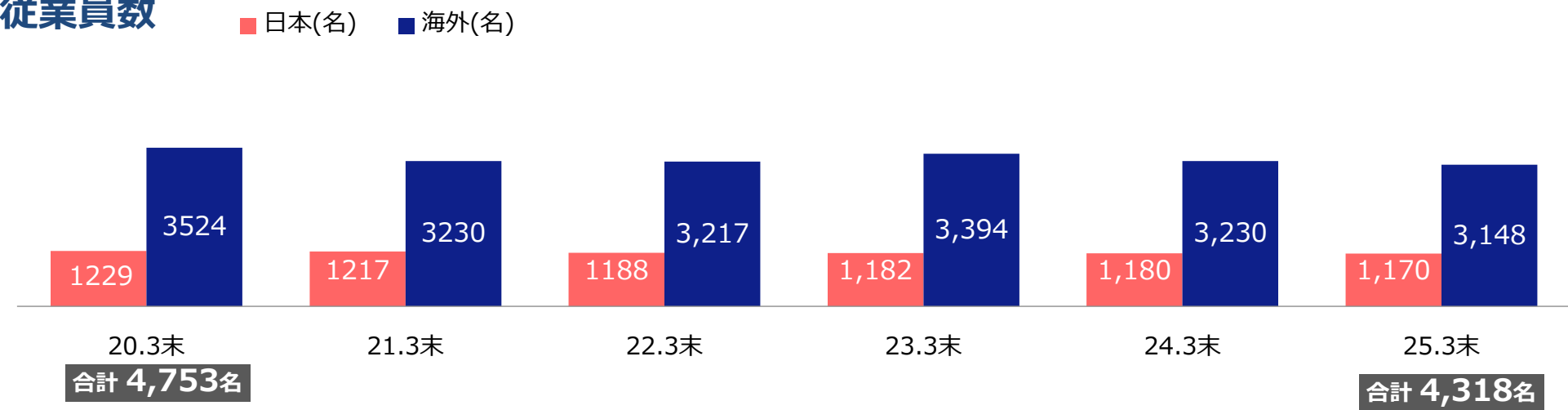


# 売上高・粗利・販管費・従業員数の推移

## 売上高・粗利・販管費



## 従業員数



# タムラの歩み

タムラ製作所は1924年5月11日に創業、2024年に100周年を迎えました。

創業当時のラジオおよび電子部品の製作・販売から始まり、現在は「電子部品」「電子化学実装」「情報機器」の3つの事業分野で、様々な市場のニーズに応える製品・サービスを提供しています。

## 1924年創業 田村ラジオ商会



ラジオ、蓄音機の製作・販売  
トランスの自作化



# 事業領域



## 事業別売上高



### 電子部品

売上高 : 768億円  
営業利益 : 32.7億円  
営業利益率 : 4.3%

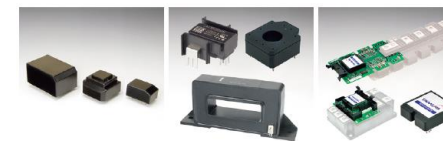
#### 主要製品

トランス  
リアクタ  
コイル  
大型トランス/リアクタ  
バッテリーチャージャ  
電源モジュール  
ゲートドライバ  
電流センサ  
LED関連製品 など



トランス/コイル・リアクタ/大型リアクタ

自動販売機用LED関連製品



電源モジュール/電流センサ/ゲートドライバ



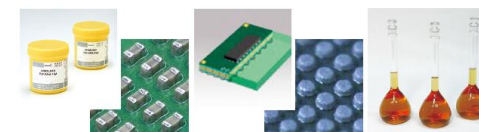
セキュリティ・IoT関連製品

### 電子化学実装

売上高 : 346億円  
営業利益 : 30.7億円  
営業利益率 : 8.9%

#### 主要製品

溶剤ペースト  
フラックス  
溶剤レジスト  
実装装置 など



溶剤ペースト/フラックス



溶剤レジスト



実装装置

### 情報機器

売上高 : 29億円  
営業損失 : ▲1.8億円  
営業利益率 : -

#### 主要製品

音声調整卓(ミキサー)  
ワイヤレスインターカム  
ワイヤレスマイクロホン など



放送用音声調整卓



ワイヤレス機器

(2025年3月期)

# 社会・産業・暮らしを支える

電子部品

電子化学実装

情報機器

社会・産業・暮らしを支えるタムラのテクノロジー



風力・太陽光発電  
データセンター

大型トランス／リアクタ



再生可能エネルギーの発電や直流送電の  
効率向上に寄与

電流センサ／電源モジュール

ゲートドライバモジュール

導電性接合材

白色反射材／フラックス

駅

駅用ワイヤレスマイクロホン



発着案内などの  
情報通信手段と  
して鉄道運行を  
支える

通信基地局

ソルダーペースト

ソルダーレジスト

デジタル通信システムを支える通信基地局  
用の基板材料

産業機械

電流センサ／電源モジュール

ゲートドライバ



ロボットや産業機械を  
制御するパワー半導  
体の駆動に欠かせな  
い、ゲートドライバ

トランス／リアクタ

工場

はんだ付装置



あらゆる電子機器に搭載されるプリント配線  
板に電子部品をはんだ付け接合する装置

エコカー

車載用リアクタ／コイル



ハイブリッド車・電気  
自動車の電圧を最適  
に制御

EV・HEV充電器用リアクタ／コイル

糸はんだ／棒はんだ  
高信頼性ソルダーペースト



厳しい温度環境でも  
クラックが生じない、  
高信頼性ソルダー  
ペースト

高信頼性ソルダーレジスト

スマートフォン・タブレット

ソルダーペースト  
ポイントはんだ付材料



微小な0201サイズ  
部品を接合可能な  
Type-6ソルダーペ  
ースト

フレキシブル基板上用ソルダーレジスト  
写真現像型パターコート(PICC)



柔軟性、耐熱性に優れ、  
モバイル機器で高い  
実績を誇るソルダー  
レジスト

航空・宇宙

トランス／リアクタ



航空機からロケット・  
人工衛星まで、究極の  
信頼性を有す

放送局

音声調整卓

DECT規格インターカム



視聴者に届ける  
音声を調整する  
音声調整卓

コンビニ・店舗

看板・ショーケース用LED照明



店舗サインやショーケースなど省エネに寄与  
するLED光源

自動販売機

商品選択ボタン／金額表示器



日本国内の自動販売  
機でトップシェアの商  
品選択ボタン

エアコン・パワコン

リアクタ

電流センサ／電源モジュール



エアコンやパワコンの  
省エネに寄与する電  
流センサ(上)と電源モ  
ジュール

家庭

人感センサ／環境可視化センサ



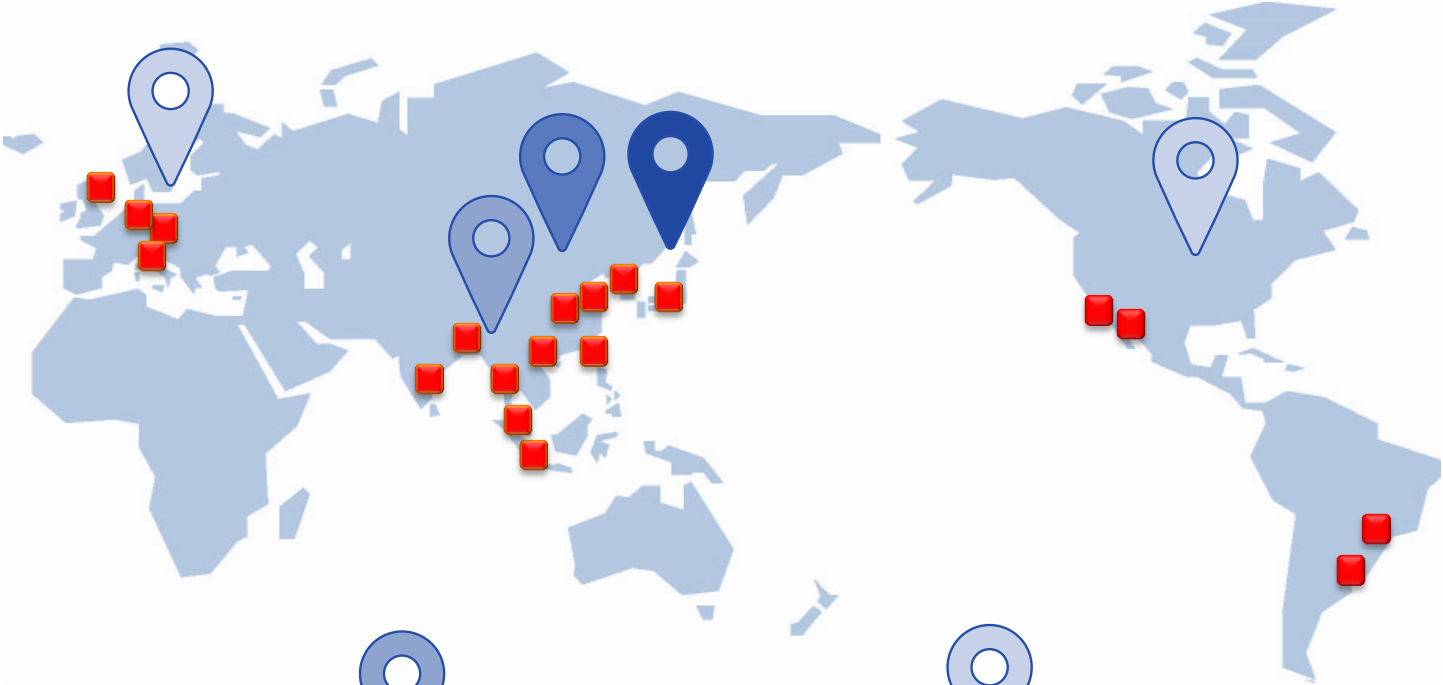
居室内で人の活動状況や快適性を見守る  
センサ

# 地域別概要

地域別売上高



地域別従業員数



## 日本

- ・売上高 : 365億円
- ・従業員数 : 1,170名
- ・製造拠点 : 5拠点



## 中国

- ・売上高 : 263億円
- ・従業員数 : 1,654名
- ・製造拠点 : 8拠点



## その他アジア

- ・売上高 : 205億円
- ・従業員数 : 893名
- ・製造拠点 : 5拠点



## 欧米

- ・売上高 : 308億円
- ・従業員数 : 601名
- ・製造拠点 : 3拠点

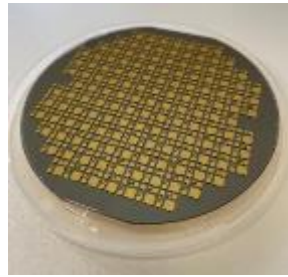
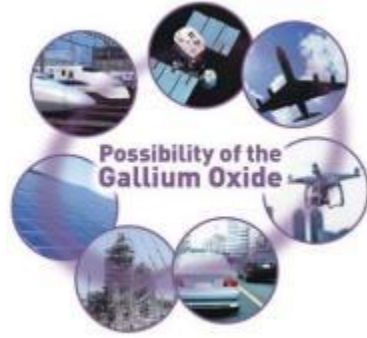
(2025年3月期および2025年3月31日現在)



# カーボンニュートラルへの貢献 ～酸化ガリウムパワー半導体の研究開発

- ◆ タムラ製作所の研究開発部門が独立して設立された株式会社ノベルクリスタルテクノロジー（NCT）は、カーボンニュートラルへの貢献が期待される酸化ガリウムパワー半導体の研究開発を推進しています
- ◆ タムラは、NCTと接合材料や電源機器などの共同開発を進め、中長期的視点で共に成長を目指しています

## 酸化ガリウムパワー半導体 研究開発



## タムラとNCTの取り組み



- 特許技術供与
- 技術支援・販売支援
- 周辺製品・材料のコラボレーション



- 酸化ガリウム基板  
およびパワーデバイスの  
製品化・製造販売

- 酸化ガリウム：SiCやGaNを越える高性能とコスト競争力が期待されているパワー半導体
- 研究開発チーム：NCT、タムラ製作所、情報通信研究機構、東京農工大学を中心とするチームで世界をリード
- NCT：タムラ製作所の持分法非適用関連会社（出資比率は約40%）。外部資本を積極的に取り込み、独立した経営陣でスピーディーな開発と事業化推進を行うため2015年に設立

NCTのホームページはこちら <https://www.novelcrystal.co.jp/>

### [NCTの研究開発成果]

- 2022年12月 次世代のパワー半導体β型酸化ガリウムの結晶欠陥イメージング技術を開発
- 2023年4月 国内初、酸化ガリウムショットキーバリアダイオード搭載の出力電力350W電流連続型力率改善回路の実機動作確認に成功
- 2023年12月 世界初、垂直ブリッジマン法による6インチβ型酸化ガリウム単結晶の作製に成功
- 2025年3月 酸化ガリウムトランジスタの世界最高性能を更新

## 事業拠点



タムラ・ヨーロッパ・リミテッド  
チェコ支店



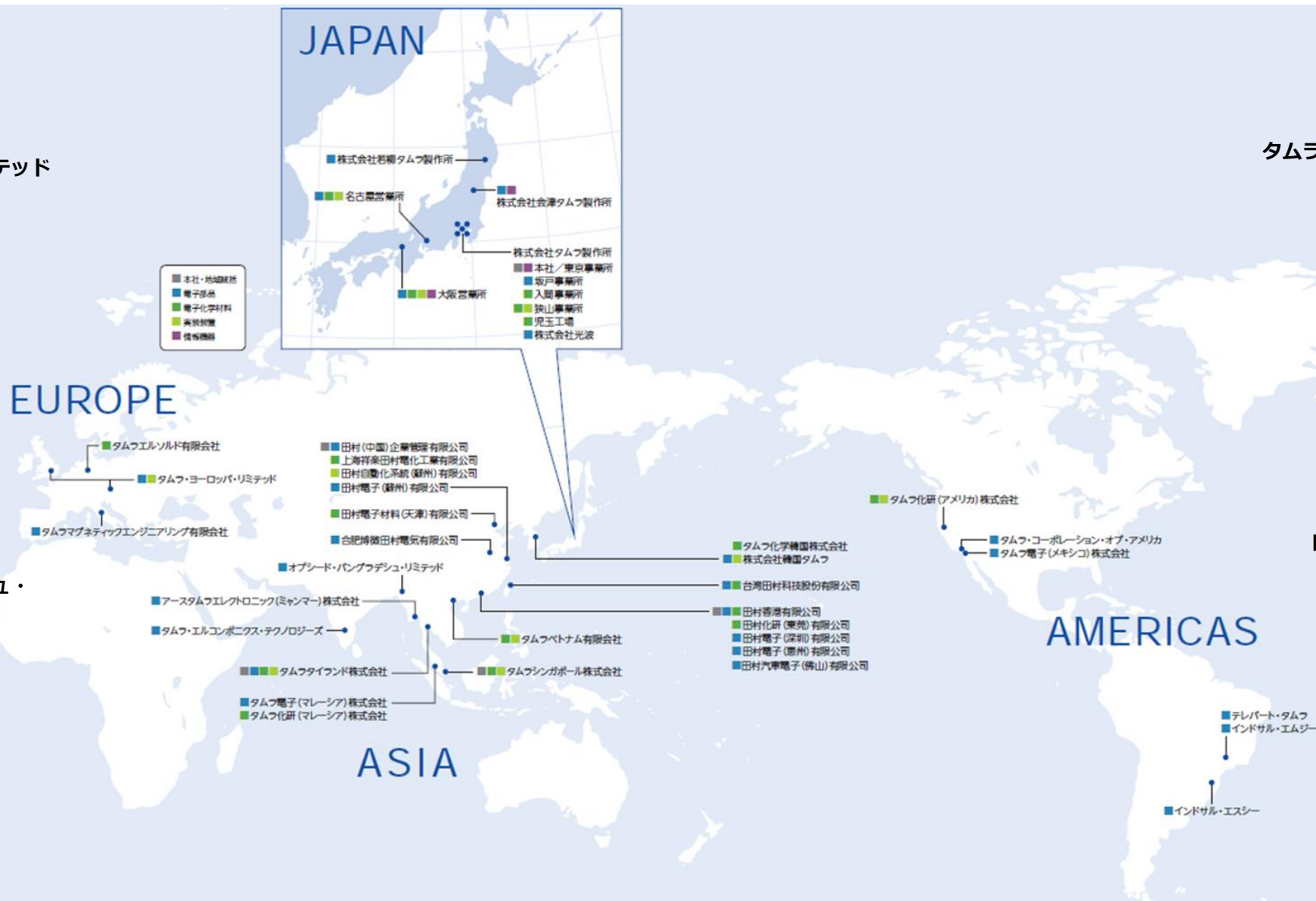
タムラタイランド株式会社



オプシード・バングラデシュ・  
リミテッド



**タムラ化学韓国株式会社**



タムラ電子（メキシコ）株式会社



**田村電子（惠州）有限公司**



田村電子（蘇州）有限公司



上海祥樂田村電化工業  
有限公司



## 当社からのお願い

---

本資料の業績予想、見通し及び事業計画については、  
現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。  
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所  
コーポレートコミュニケーション統括部

